

渡辺両師頌徳碑

八千代町菅谷3-7（医王寺）

八千代町役場から北へ700m、八千代菅谷郵便局の北側に医王寺があります。その境内にひときわ大きな石碑「渡辺両師頌徳碑」があります。医王寺の本堂北側にあった私塾「三計学舎」を創設した住職の渡辺宥海と子の智海の頌徳碑です。

三計学舎は明治32年（1899）の頃に創設されました。授業は午前9時から午後4時までで、午前中のみのお塾生も大勢いたといわれています。塾生は100名ほどで、八千代町出身が多かったといえます。教育内容は旧制中学校程度の国語や書道、時節に応じた挨拶の仕方など実際の生活に役立つものでした。指導期間は11月から3月までの5か月間でしたが、11月から通学できる塾生は少なく、12月から1月に通い始める塾生が多かったといえます。

初代師匠の宥海は嘉永2年（1849）、下妻に生まれ、10歳で剃髪し、15歳から奈良の長谷寺で5年間修行しました。その後、明治10年（1877）、27歳で茨城師範学校を卒業し、



住職のかたわら地域の子弟教育にあたっていました。校舎は木造の2階建て。4月から10月までの授業が休みの時期には2階を養蚕室に使用し、後に上級者向けの自習室になったといえます。宥海は昭和10年（1935）10月に88歳で逝去しますが、その後、子の智海、孫の宥岳と引き継がれました。三代にわたる63年間、約2,000人余りの塾生が学び、町長、教育長、町会議員などを輩出した三計学舎は昭和37年（1962）に閉塾しました。この頌徳碑は、近代から現代にかけて、農村でも地域住民の教育に携わり、慕われた先生がいたことを物語るものでしょう。

茨城教育 第八六三号

令和二年六月二十日発行

編集責任者 樋口 浩史

発行人 樋口 浩史

発行所 一替屋 茨城県教育会

水戸市見和 一三五六一二

電話 〇二九一三二一七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所